

# データ統合連携基盤の整備の進捗について

令和4年5月  
デジタル戦略本部室

問合せ先

総務局デジタル戦略本部室

デジタル戦略担当課長 齊藤

電話 045-285-0542

データ連携推進グループ

電話 045-285-0409

## ■ 主旨

令和4年2月開催の「知事と市町村長との意見交換会」で説明させていただいた、「データ統合連携基盤」の整備について、市町村を交えた検討会や実証実験の進捗状況を御報告するものです

## ■ 構成

- 1 取組の概要（振り返り）
- 2 検討会とワーキングの開催状況の御報告
- 3 今後の予定

# 1 取組の概要（振り返り）

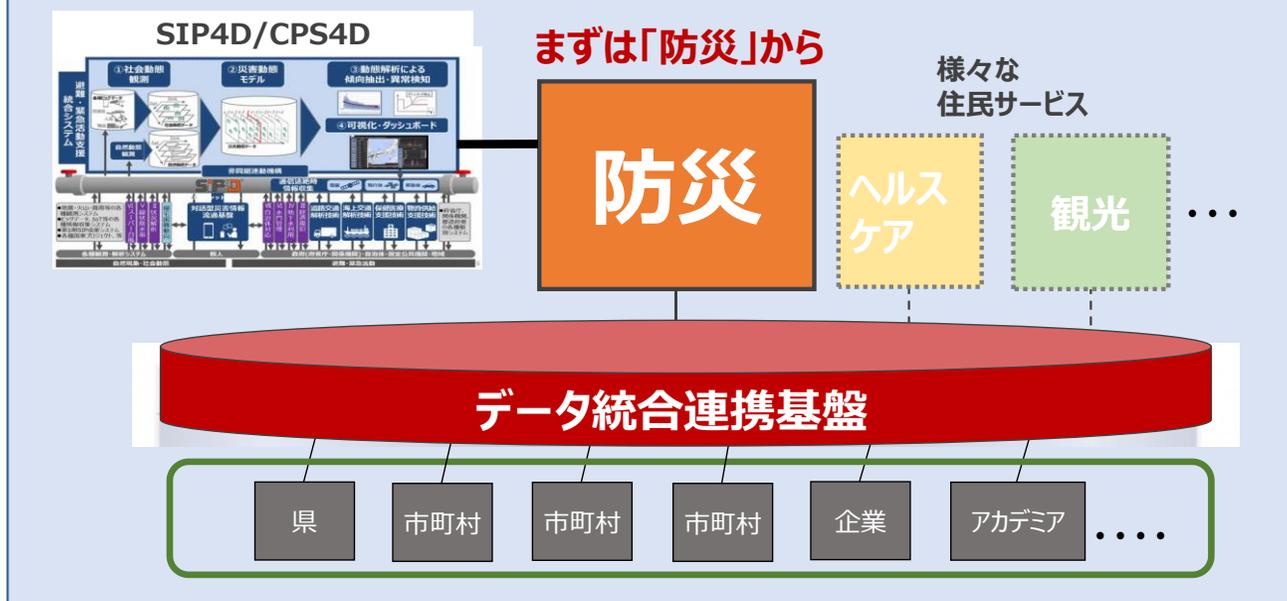
- 知事と市町村長との意見交換会において、県と市町村が共同利用できる「データ統合連携基盤」を整備していくことを御説明しました

幅広いデータを迅速に収集、統合、連携、分析するなど様々なデータ利活用できる基盤を整備し、DXを推進



リソースを共有しながら地域の様々な社会課題の解決を目指す

まず**防災分野**から、県と市町村で共同利用できる仕組みを整備



＜基盤を共同利用するメリット＞

- ① 災害時等における他自治体との迅速な情報共有
- ② 基盤・機能の共通化による災害時の強靱なBCP対応
- ③ 共同運用による人材やコストのシェア

# 1 取組の概要（振り返り）

- 取組を進めるため、1月より有識者と市町村を構成員とする「検討会」及び実証実験に向けてのワーキングを立ち上げました
  - **ステップ1**（令和3年度中）  
「神奈川県データ統合連携基盤の整備に係る検討会」の立上げ
  - **ステップ2**（令和3年度中）  
市町村との連携による**基盤を活用した実証実験**の開始（防災分野）
  - **ステップ3**（令和4年度中）  
県内市町村が活用する**基盤**の整備

# 2-1 検討会とワーキングの開催状況

## ■ 検討会とワーキングの開催状況

1月から全5回開催し、検討会及びワーキングに3政令市を始め、30市町村が参加いただきました

|       | 1月          | 2月          | 3月                  | R4年度        |
|-------|-------------|-------------|---------------------|-------------|
| 検討会   | 第1回<br>1/17 | 第2回<br>2/16 | 第3回<br>3/23<br>一旦終了 | 必要に応じ<br>開催 |
| ワーキング |             | 第1回<br>1/31 | 第2回<br>3/11         | 引き続き<br>開催  |



第1回検討会記録（知事あいさつ）

### ● 検討会

県及び県内市町村が共同利用できるデータ統合連携基盤の整備、活用に向けて、防災情報、データ工学、情報法、行政法及び情報セキュリティ等の**専門家と市町村関係者が参加し、論点を整理しました**

### ● ワーキング

検討会の検討内容も踏まえ、**実証実験の実施に向けた実務レベルの協議**を行いました

【協議内容】

- **防災分野に係る実証実験の内容の検討、基盤環境の提供と利用試行**
- **実証実験の評価、成果検証**

## 2-2 検討会の取りまとめ

多くの御参加・御意見をいただき、短期間で**考慮すべきポイントや課題が明らかになり、共同利用による基盤整備の一步を踏み出すことができました**

|       | 論点の整理   |
|-------|---|
| 基盤整備  | 解決すべき課題の現状を可視化した上で、それが <b>基盤構築によりどう変わるか</b> を示すことが効果的                       |
| 防災分野  | ・ <b>データ共有の必要度</b> について、 <b>レベル分け</b> をすべき<br>・ <b>基盤に投入するデータ</b> に具体例が足りない |
| 実証実験  | 実証実験では、メリットだけでなく <b>課題も示し、繰り返すことでブラッシュアップ</b> を図ってほしい                       |
| ルール整備 | 情報の質によって、 <b>個人情報保護法への対応</b> だけでなく、 <b>プライバシーの侵害</b> などにも留意すべき              |

### 検討会での議論を受けた「取組の方向性」

#### 基盤整備

分野や事業単位で**課題や目的を明確にし、市町村と共有できる目標**に落とし込みします

#### 防災分野の基盤・データ整備

既存システムの状況を確認しながら、**情報の取得可否や制約等に基づき棚卸を進め、市町村ニーズを踏まえて基盤への実装を検討**します

#### 防災分野実証実験

課題を明確にし、**実証実験の成果を横展開しながら、課題解決と自治体ニーズに対応**していきます

#### 利活用ルールの整備

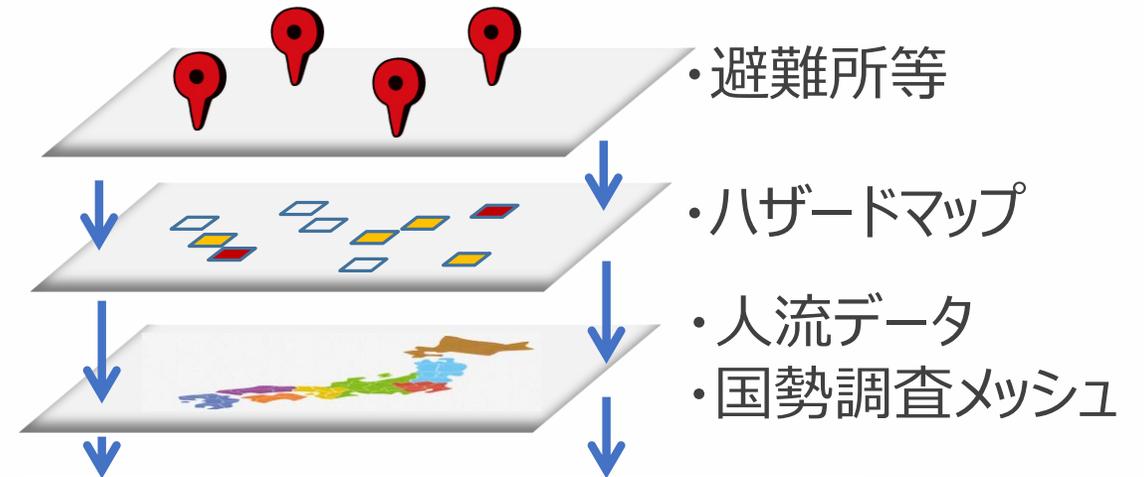
基盤の運用にあたって、**個人情報に限らず、プライバシー保護の観点、情報セキュリティの観点、データ保存など管理規定も含めたデータ管理ポリシーの策定**を検討します

# 2-3 ワーキングの進捗

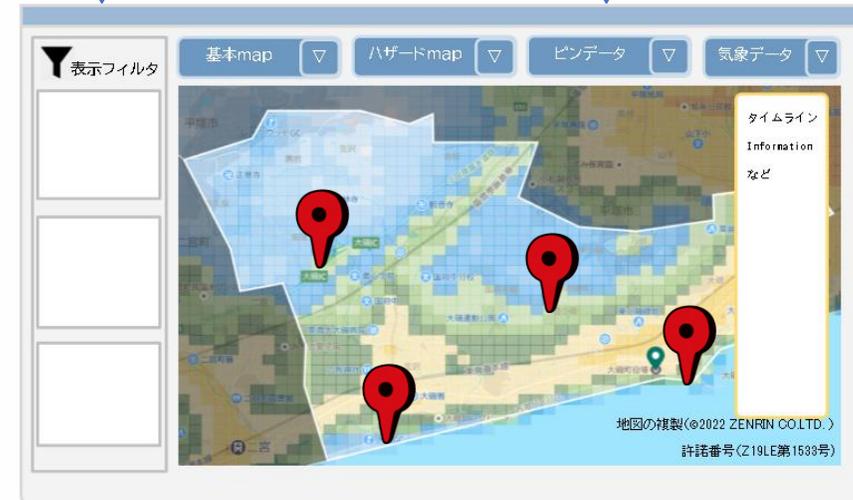
## 実証実験の準備状況

### 取組

- ワーキングにて実証案を整理し、優先度を決めたとえ、基本データとなる人流・国勢調査データを整備中です
- ワーキングは引き続き開催して、実証実験を進めてまいります

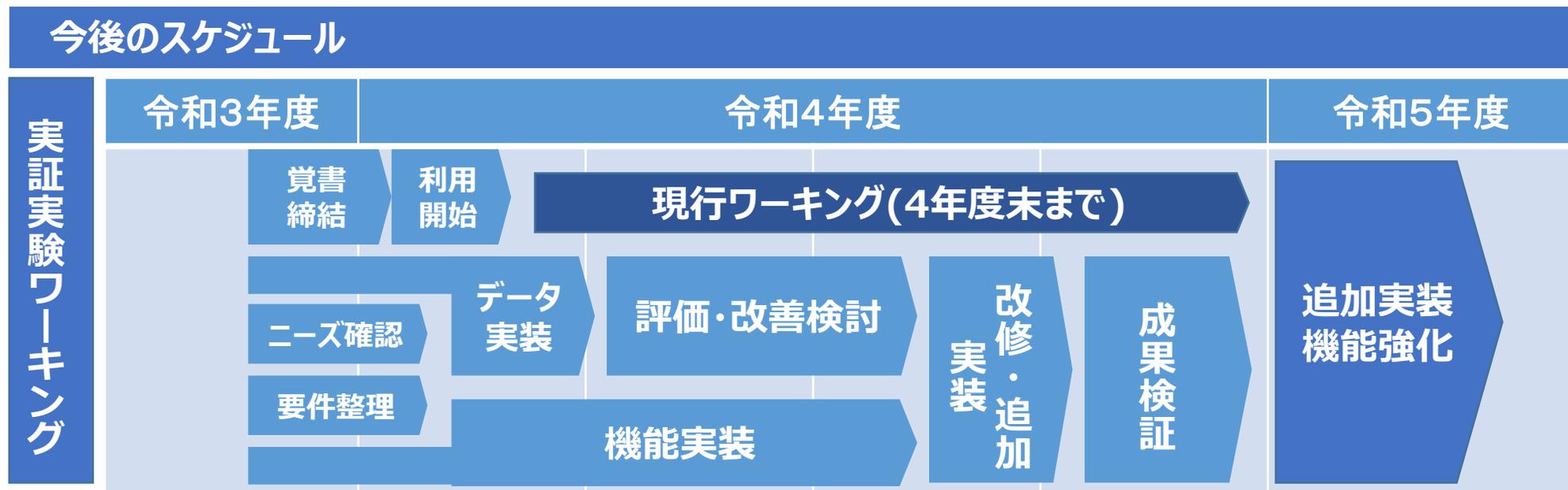


|     | 基本データを用いた実証テーマ（抜粋）               |
|-----|----------------------------------|
| 案 1 | 被害想定区域と避難状況の把握                   |
| 案 2 | ハザードマップ×居住人口構成によるシミュレーション環境の作成   |
| 案 3 | 自宅療養者・要支援者情報×ハザードマップによる情報の可視化・配信 |



### 3 今後の予定

- 検討会は、3月でいったん終了し、現在、報告書を取りまとめております
- 実証実験ワーキングは、4月初旬に実証参加団体様とデータ管理等に関して「覚書」を締結しました



- 市町村職員も順次、基盤の利用を開始します。
- 今後、実証実験の評価検証を通じて、現場の要望を取り入れた改善や研修を行い、課題解決に向けた意見交換を実施してまいります

# 【参考】 検討会構成員

## ■ 外部専門家 6名

| 氏名     | 役職                       |
|--------|--------------------------|
| 臼田 裕一郎 | 防災科学技術研究所総合防災情報センターセンター長 |
| 喜連川 優  | 国立情報学研究所所長／東京大学特別教授      |
| 庄司 昌彦  | 武蔵大学社会学部メディア社会学科教授       |
| 友岡 史仁  | 日本大学法学部経営法学科教授           |
| 湯淺 壘道  | 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授    |
| 横田 明美  | 千葉大学大学院社会科学研究院准教授        |

# 【参考】 検討会及びワーキングへの市町村参加状況

## 検討会及びワーキングに3政令市を始め、30市町村が参加

### ■ 検討会

(29市町) 正式名：神奈川県データ統合連携基盤の整備に係る検討会

|             |  |         |
|-------------|--|---------|
| 構成員として参加    | 横浜市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、大磯町   | (計5市町)  |
| オブザーバーとして参加 | 川崎市、相模原市、平塚市、藤沢市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、南足柄市、綾瀬市、葉山町、寒川町、二宮町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、愛川町、清川村 | (計24市町) |

### ■ ワーキング

(17市町) 正式名：神奈川県データ統合連携基盤実証ワーキンググループ

|                 |  |         |
|-----------------|--|---------|
| 企画・検討・データ提供での参加 | 横須賀市、平塚市、鎌倉市、藤沢市、大磯町、山北町                       | (計6市町)  |
| 企画・検討参加         | 横浜市、逗子市、厚木市、伊勢原市、海老名市、葉山町、中井町、開成町、真鶴町、湯河原町、愛川町 | (計11市町) |

本検討会及びワーキンググループには、各自治体のICT部門、防災部門が参加いただいています